

AI時代の今だからこそ新聞を読もう

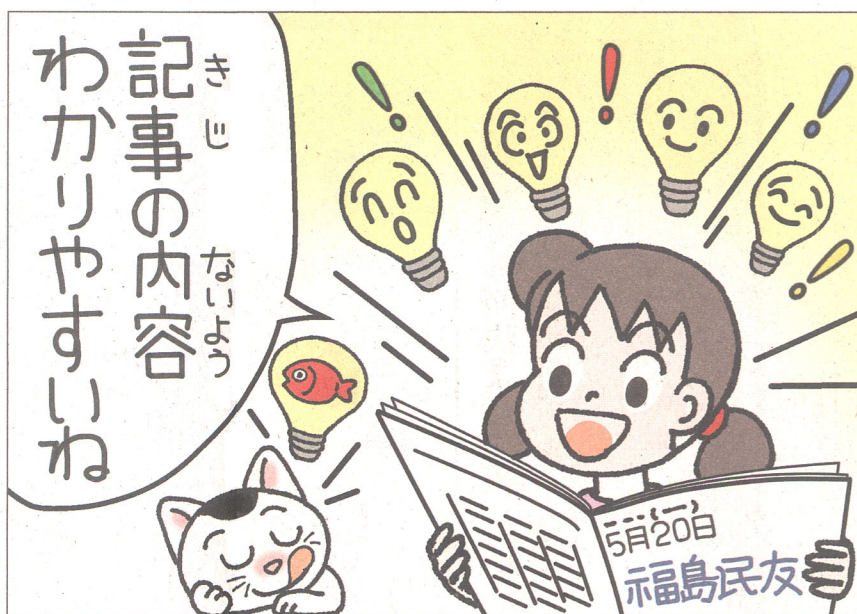
Q インターネットと紙の新聞の違いは。

- A
- ・ ネットで検索すると、似たような記事が無数に出てくる。どこまで信じたいかわからないし、リンク先からほかの情報に飛びついてしまう。読んでいるときはたくさん情報を得られたように感じるが、実は記憶にはあまり残らない。
 - ・ 新聞は限られたスペースに端的な文章と写真、図表、解説などが掲載され、何をどこまで読むかはっきりしている。読み手は限られた内容を頭に入れ、意味をよく考え、家族やほかの人と話すことで自分の意見、考えを形成し、言語能力や思考力を刺激するなど、教育面での効果が高い。
 - ・ 新聞は広げると、ひと目でいろいろな記事が目に入る一覧性に優れ、そこから自分が主体的に読みたい記事を読むという行為が認知の力を高めてくれる。
 - ・ ネット上には同じようなデザインの見出しが並ぶが、新聞は記事内容に合わせてデザインを工夫するなど、ネットにはない特徴で存在価値を高めている。

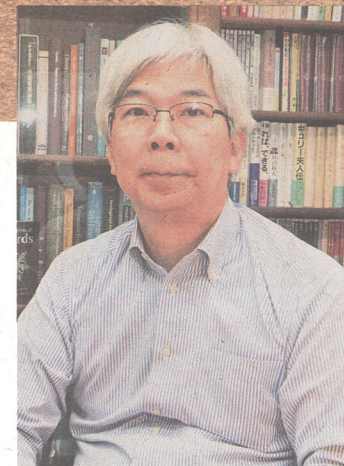


脳の働きに好影響

「なぜ今、新聞なのか」。人工知能(AI)が普及し、インターネット上に本当もうそも入り交じった大量の情報が飛び交う時代に、言語脳科学などを研究する東京大大学院総合文化研究科の酒井邦嘉教授は、新聞が「読む力、考える力を養ってくれる」と断言する。酒井教授に、新聞を読むことが脳の働きにどう影響するか、子どもの教育面でどう効果があるのかなど「AI時代に必要な新聞の力」を聞いた。



きれいにレイアウトされた情報が載った新聞の内容は頭に残りやすい



東京大学大学院総合文化研究科
酒井 邦嘉教授

さかい・くによし 1964年東京都生まれ。東京大理学部卒、同大学院理学系研究科博士課程修了。理学博士。同大医学部助手、ハーバード大医学部リサーチフェロー、MIT言語・哲学科客員研究員を経て現職。著書に「言語の脳科学」(中央公論新書)、「脳を創る読書」(実業之日本社)、「デジタル脳クライシス」(朝日新書)など多数。

(2枚のイラスト おだれいこ)

Q 動画が世の中にあふれている。映像や音声と比べ、新聞など文字で情報を得る場合、脳の働きの違いは。

- A
- ・ ニュースなどを解説する動画が増えているが、解説する人物の人となりなど目で見る情報、言葉のイントネーションなどの音声情報など、情報量が多すぎて肝心のニュース内容が頭に残りづらい。
 - ・ 動画は受け身で視聴することになり、思考が停止しやすい。自ら情報を得ようとしなくなり、記憶に定着しにくい。

Q 文章や画像を瞬時に作る生成AIの利用が進んでいる。脳の働きにどう影響するか。

- A
- ・ AIは脳を使わないで済ませる技術。子どもたちは作文を書く時にAIに依存してしまうし、大学生もレポート作成で使った結果、文章力や思考力、そして創造力まで衰えてしまう。
 - ・ AIに何か意見や質問をした場合、否定するものは出てこない。違う意見に触れず、心地よく、自分に都合の良いものばかりで中毒性が生まれ、危険な状況に陥る。
 - ・ 社会には多様な人がいて意見が違ふことを受け入れられなくなる。今、世界中で国優先主義による分断が生まれているが、AIがそれを加速させるのではないかと危惧している。

Q 生成AIを「賢く使おう」という声をどう思うか。

- A
- ・ AIは脳を使わずに済ませる技術なので、教育現場にできるだけ持ち込まない方がいい。
 - ・ 例えば言葉で希望するイラストを書いてほしいと指示すると、一見良さそうなものを示してくれる。AIは表面的には優しく友好的に見えるが、相手の心や意図を推理、想定している訳ではなく、対話のまねをしているだけ。
 - ・ 示される答えも出所不明の情報をAIが加工している可能性があり、真偽不明な情報も含んだ答えを出すことにちゅうちょすることもない。まるで人間の言葉を操るモンスターのようだ。

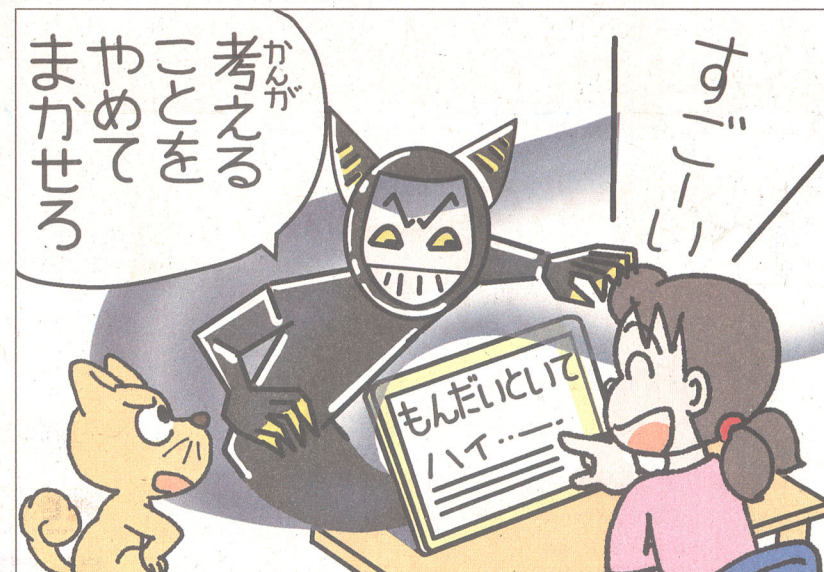
「想像力」「創造力」高まる

Q 新聞を活用すると、子どもの教育にどのような効果があるか。

- A
- ・ 言葉に関する言語力だけでなく、「想像力」と「創造力」が高まる。
 - ・ 新聞を読むことは国語だけでなく、あらゆる教科に通じる力が身につく。社会科であれば物事の背景を読み解く力が身につくし、体育で一流スポーツ選手がトレーニング方法を紹介する記事を読めば、何をすれば自分が上達できるか考えることができる。
 - ・ 子どもたちが、きちんとしたものの考え方を身につけることができる。
 - ・ 子どもたちが、人助けをしたなどの記事を読めば、何が大事か考えてくれて、倫理教育にもつながる。

Q AI時代に必要な新聞が持つ力とは。

- A
- ・ 新聞は、記者が確実な情報を得るために、実際に人に会い、資料を調べ、本当なのか丁寧に裏取りして記事化している。
 - ・ 福島民友新聞など地方紙は、地域の上質な情報を取材して、みんなに読んでほしい記事を保ち続けている。その信頼性をもっと多くの人に知ってほしい。
 - ・ 脳を育てるには、脳を徹底的に鍛えることが大事。AIの利用を規制し、新聞や紙の本を読むことから始めてみよう。一つの記事を最初から最後まで読むことからでも、やり抜く力が身につく。



AIに宿題やレポート作成を頼み続けると、自分で考える力が失われます